

アルミフロント取扱店の皆様へ

はじめに

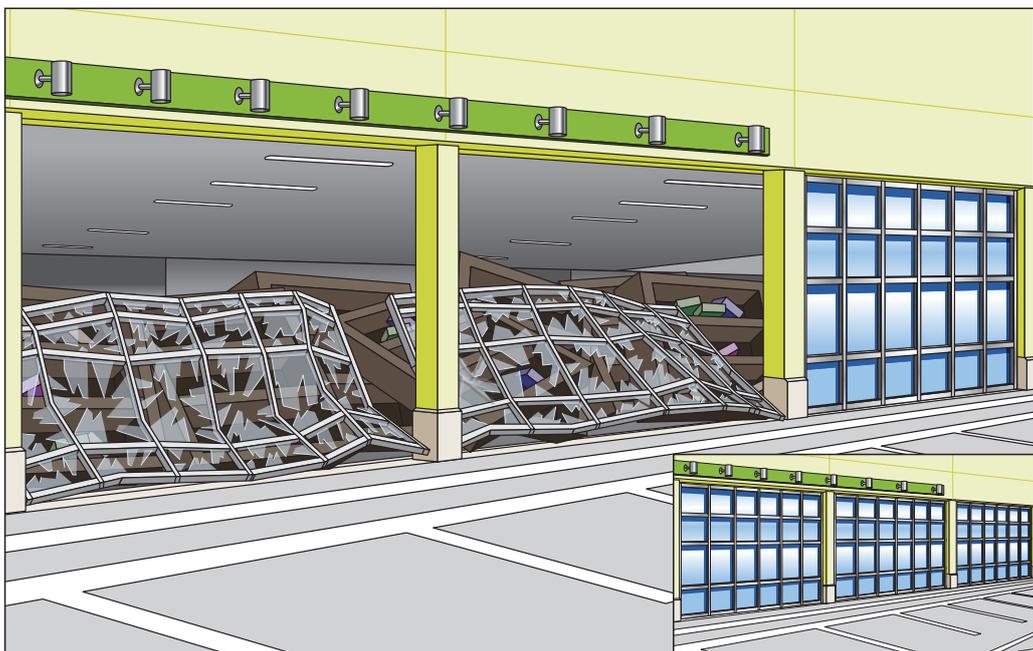
近年、アルミフロント開口部の更なる大型化や大型台風の発生頻度が増加しています。

2018年9月の台風第21号は、四国や近畿地方で猛烈な風（最大瞬間風速：和歌山57.4m/s、大阪47.4m/s）が吹き、各地で大きな被害をもたらしました。翌年9月の台風第15号では、関東地方において、観測史上1位の最大風速や最大瞬間風速（千葉57.5m/s、木更津49.0m/s）を観測し、特に千葉エリアでは甚大な被害が生じた事は皆さまの記憶にも残っていると思います。

建築物等の被害において、アルミフロントの脱落・転倒が確認されましたので、このたび、事例と想定される要因、施工方法をまとめました。

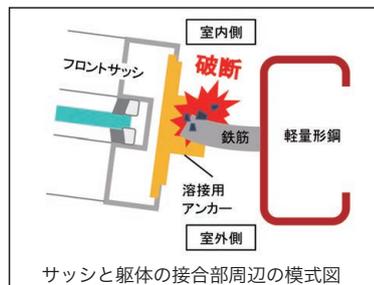
今後もより安全で快適な商品供給のために、本内容の再認識と正しくご使用いただきますようお願いいたします。

アルミフロントの脱落・転倒事例



想定される要因

被害のあった現場は、モルタル詰めをしない鉄骨納まりで鉄筋棒溶接が破断していました。



サッシと躯体の接合部周辺の模式図



アルミフロントの施工方法及び躯体との接合部強度について

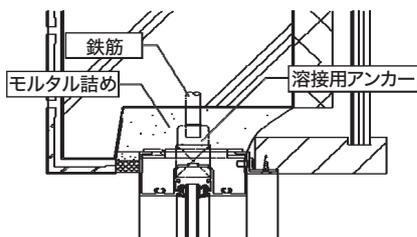
アルミフロントにおいて、方立や無目等の耐風圧性を確保するだけでなく、躯体との間の接合部に適切な耐力を確保できる工法を採用するとともに、必要に応じて当該工法による耐力を計算によって確かめることが重要です。

アルミフロントの躯体との接合部の工法として、湿式工法と乾式工法があり、乾式工法は、アンカー溶接部の耐力確認が重要です。各アルミサッシメーカーの強度制限表と合わせ接合部の施工基準を遵守してください。

接合部の工法（アンカー溶接納まり）

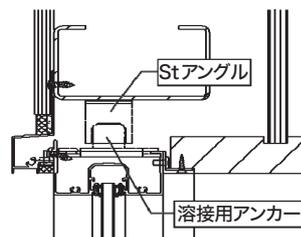
●湿式工法（鉄筋溶接）

RC造やALC納まりのように、アルミフロント廻りにモルタルを詰める工法で、風などの荷重はモルタルが支えています。



●乾式工法（アングル溶接）

鉄骨造のように胴縁にStアングルを用いてアルミフロントを取り付ける工法で風などの荷重は溶接部が支えています。



※昨今の異常気象による予想以上の強風、突風の発生が観測されており、方立の見込みも強風対策の観点から強度の高い方立を推奨します。

アルミフロント関連出版刊行物のご紹介

(一社)日本サッシ協会では、施工における注意点や耐風圧強度などについて掲載したリーフレット、アルミフロント品質基準【第8版】を発行しておりますのでご利用ください。

施工編



より安全で快適なアルミフロント商品の普及促進に向けて
～施工編～
一般社団法人 日本サッシ協会

耐風圧編



より安全で快適なアルミフロント商品の普及促進に向けて
～耐風圧編～
一般社団法人 日本サッシ協会

防水処理編



より安全で快適なアルミフロント商品の普及促進に向けて
～防水処理編～
一般社団法人 日本サッシ協会

アルミフロント品質基準【第8版】

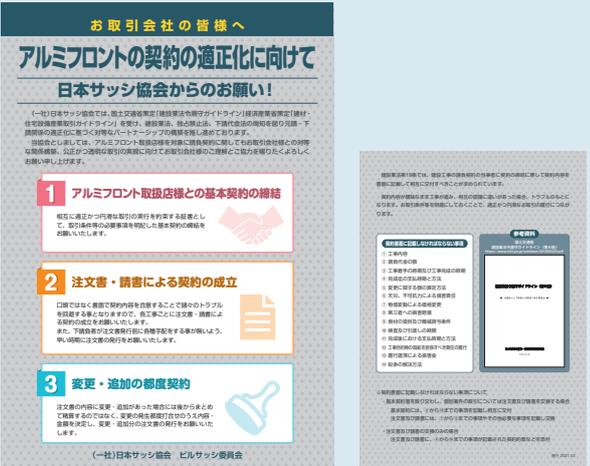


第8版
FRONT
アルミフロント
品質基準
一般社団法人 日本サッシ協会

各アルミサッシメーカーへ
お問い合わせください

(一社)日本サッシ協会では、アルミフロントの契約適正化に向けてのリーフレットを発行しております。併せて、ご利用ください。

**アルミフロント取扱店様から
お取引会社様向け**



アルミフロント取扱店様向け



リーフレットは(一社)日本サッシ協会のホームページで ご覧いただくことができます▶
<https://www.jsma.or.jp/documents/construction/tabid134.html>

